

〔(公)病害虫防除試験（農林水産部食料安全課所管）〕

未解明病害虫の原因究明および防除技術の検討

～父島における各種害虫の発生消長～

大林隆司

(小笠原農セ)

【要 約】 父島におけるハスモンヨトウ、フタテンミドリヒメヨコバイ、アメリカシロヒトリの2011～2013年の発生消長を調査した。それぞれの発生ピークはおおむね一定であり、過去のデータとも大きな違いはなかったが、誘殺数が減少傾向のものもあった。

【目 的】

小笠原の野菜や固有植物に対する数種類の害虫の年間発生消長を調査し、過去の発生消長や発生量との比較を行うことで、今後の防除の参考にする。

【方 法】

ハスモンヨトウは性フェロモン剤（フェロディン®SL1）を誘引源としたSEトラップを父島小曲の農業センター露地圃場に設置し、2011年5月から7日間おきに誘殺数を記録した。なお、タバコガとオオタバコガの性フェロモントラップも同時に設置して調査した。フタテンミドリヒメヨコバイは幅10cm×長さ20cmの黄色板の中央に幅5cm×長さ20cmの黄色粘着シートを装着した粘着トラップを父島西町のハイビスカス植え込み前に設置し（地上高約1m）、7日間おきに誘殺数を記録した。アメリカシロヒトリは性フェロモン剤（ニトルアー®）を誘引源としたSEトラップを父島洲崎のシマグワに設置し、7日間おきに誘殺数を記録した。なお、フタテンミドリヒメヨコバイ（2005年侵入）は2005年9月から、アメリカシロヒトリ（1994年侵入）は1997年5月から調査を継続している。

【成果の概要】

1. ハスモンヨトウの発生は年により若干の違いはあったものの、おおむね初春（2～3月）、初夏（6月）、秋季（10月）、冬季（12月）に発生のピークがみられ、夏季には少ない傾向があった（図1）。これは発生量も含め、過去の調査結果（小谷野，1984～1985年；井川・大林，1999～2000年）とほぼ同様であった。なお、タバコガについては2012年11月、12月、2013年2月、8月、9月、11月に1～数個体、オオタバコガについては2013年4月と11月に1個体ずつが記録されただけであった（データ省略）。
2. フタテンミドリヒメヨコバイの発生は年により若干の違いはあったものの、おおむね春（5～6月）と秋季（9～11月）に発生のピークがみられた（図2）。これは発生量も含め、過去の調査結果（小野ほか，2005年～）とほぼ同様であった。
3. アメリカシロヒトリの発生は年により若干の違いはあったものの、おおむね春（4～5月）、夏（7～8月）、秋季（10月）、冬季（11～12月）に発生のピークがみられた（図3）。これは過去の調査結果（大林ほか，1997年～）とほぼ同様であった。なお、2013年は誘殺数が少なかったが、トラップの設置環境の変化による可能性もある。
4. まとめ：成虫が毎年、島外から飛来するハスモンヨトウ以外の、フタテンミドリヒメヨコバイとアメリカシロヒトリは父島に定着し、一定量の発生を繰り返しているといえる。今後も発生状況の把握のために調査を継続する。

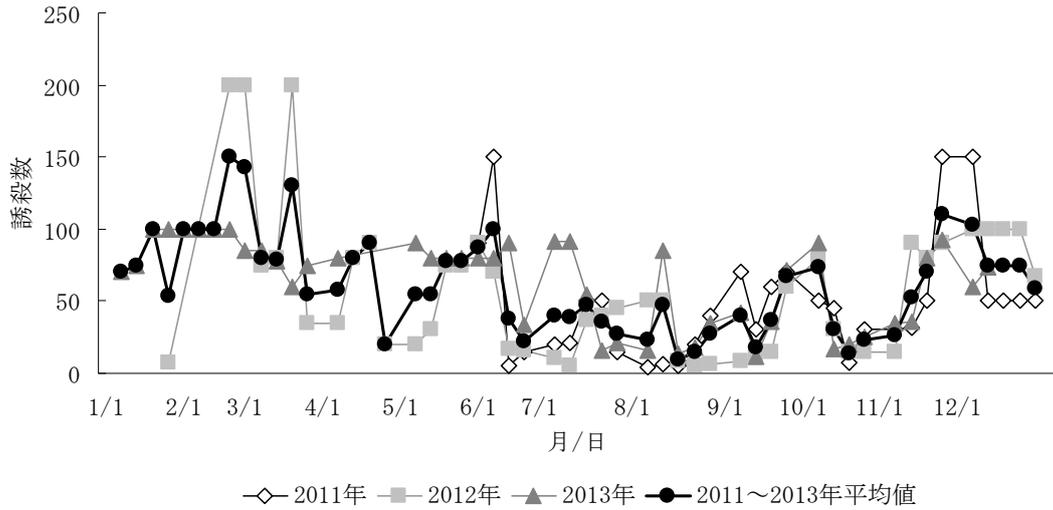


図1 ハスモンヨトウの発消長 (父島小曲：2013年は11月まで)

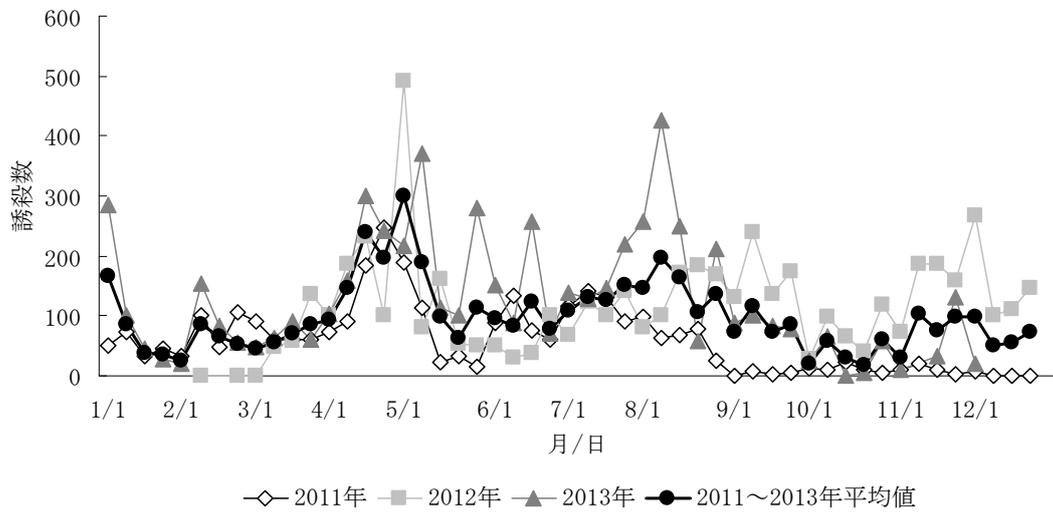


図2 フタテンミドリヒメヨコバイの発消長 (父島西町：2013年は11月まで)

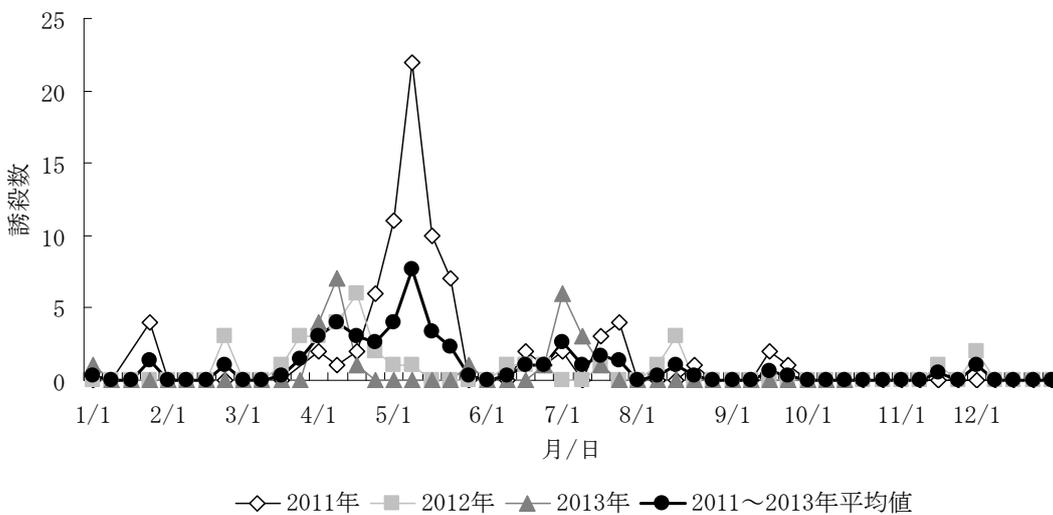


図3 アメリカシロヒトリの発消長 (父島洲崎：2013年は10月まで)